

2013年度インテンシブコースⅠ シラバス

科目名：がん患者の在宅医療	担当講師	あおぞら診療所 医師 松本務
	講義時間数	2.0
	講義日時	平成 25 年 11 月 4 日(月・祝) 10:10～12:10
	講義方法	講義
目的	がん患者がうける在宅医療システムや在宅医が行うがん緩和医療について理解することができる	
目標	1)がんの在宅医療システムについて説明ができる (1)がんの在宅医療とは (2)訪問診療と往診(緊急往診)について (3)がんの在宅医療における対象 (4)病診連携・診診連携・多職種連携について (5)在宅医療を受けるための手続き(流れ) 2)在宅で提供される医療の内容について説明ができる (1)がんの在宅医療における主な医療内容 (2)がんの在宅医療における看護師(訪問看護師含む)との協働について 3)がんの在宅医療における在宅医の役割と活動について説明ができる (1)がんの在宅医療における在宅医の役割とは (2)がんの在宅医療の実際について	
備考		

科目名:在宅がん患者と栄養	担当講師	高知医療センター 栄養局長 渡邊慶子
	講義時間数	1.5
	講義日時	平成 25 年 11 月 4 日(月・祝) 13:10～14:40
	講義方法	講義
目的	進行がん患者の在宅ケアに必要な栄養管理方法を身につける	
目標	1)進行がん患者の病態や代謝動態に基づく栄養障害(医原性栄養障害を含む)について説明ができる (1)がん患者の代謝動態について ①糖代謝 ②タンパク代謝 ③脂質代謝 (2)進行がん患者および終末期がん患者の栄養障害 ①病態に基づく栄養障害:がん悪液質 ②不適切な栄養管理による栄養障害(医原性栄養障害):様々な要因に起因した食思不振、エネルギー不足など ③タンパク質・エネルギー低栄養状態(PEM)とは 慢性栄養障害(マラスムス型)と急性栄養障害(クワシオコール型) 2)がん患者の栄養状態の評価の要点について説明できる (1)栄養評価とは (2)栄養評価の意義 (3)栄養評価方法 3)栄養学的観点から、在宅緩和ケア(主にごがん終末期)における輸液・栄養管理について説明ができ、患者や家族に助言できる (1)在宅における栄養療法 ①経口摂取可能な場合(本人の意向や食事形態、補助食品の活用など) ②経口摂取不可能な場合(輸液療法、投与栄養素など) ③静脈輸液の中止時期の判断	
備考		

科目名:在宅がん医療と看護倫理	担当講師	高知県立大学看護学部 教授 藤田佐和 特任助教 弘末美佐
	講義時間数	3.5
	講義日時	平成 25 年 11 月 9 日(土) 13:30～17:00
	講義方法	講義/演習(事例検討)
目的	在宅がん医療の中で生じる倫理的な課題を理解し、看護専門職として倫理的に対応できる能力を身につける	
目標	1)在宅看護実践の道徳的判断の中心となる倫理の基本的な知識を理解できる (1)倫理原則について理解できる ①善行と無害 ②正義 ③自律 ④誠実 ⑤忠誠 (2)倫理的意思決定の基盤となる概念について理解できる ①アドボカシー ②責務と責任 ③協力 ④ケアリング 2)在宅看護実践に起こりやすい倫理的課題について理解できる 3)在宅看護実践における倫理的課題に対する意思決定支援ができる (1)意思決定とは (2)苦痛の緩和:セデーション (3)Jonsen 臨床倫理の 4 分割法の活用方法について理解できる (4)Jonsen 臨床倫理の 4 分割法を用いてグループワークを行い、具体的な解決策を導き出すことができる	
備考	参考図書 サラ T. フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン 片田範子、山本あい子訳:看護実践の倫理【第2版】、日本看護協会出版会、2007	

科目名:在宅がん患者とコミュニケーション	担当講師	高知県立大学看護学部 特任助教 弘末美佐 芸西病院 緩和ケア認定看護師 岡田さえ
	講義時間数	3.0(うち演習 1.5)
	講義日時	平成 25 年 11 月 9 日(土) 9:30~12:30
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる能力を身につける	
目標	1)在宅がん看護実践におけるコミュニケーションの重要性を説明できる (1)コミュニケーションについて ①コミュニケーションとは ②がん患者に対するコミュニケーションの必要性 (2)終末期にコミュニケーションが必要なテーマとは (3)意思決定支援 (4)アドバンスケアプランニング 2)在宅がん看護実践に活用できる基本的なコミュニケーション技術を説明できる (1)怒り・否認を表出する患者とのコミュニケーション (2)死の話題があがる患者とのコミュニケーション (3)コミュニケーションの技法 ①言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション ②希望をもたせること ③患者への質問方法 ④QOL を重視した会話 ⑤終末期がん患者や家族とのコミュニケーション 【演習】 3)ロールプレイングやグループワークを通して、在宅におけるがん患者や家族の状況に応じたコミュニケーションを展開することができる (1)怒りや否認の感情を表出する患者とのコミュニケーション (2)死について話題がでた患者とのコミュニケーション	
備考		

科目名：がん患者の在宅移行支援	担当講師	①もみのき病院 MSW 森岡梨沙 ②高知医療センター地域医療連携室 早瀬仁美 ③高知医療センター緩和ケアチーム 北添可奈子 ④高知医療センター緩和ケアチーム 北添可奈子 高知県立大学看護学部 助教 小原弘子
	講義時間数	6.0
	講義日時	平成 25 年 11 月 17 日(日) ①9:00～10:00 ②10:00～11:00 ③11:10～12:10 ④13:10～16:10
	講義方法	講義/演習
目的	医療的・日常生活支援が必要ながん患者が、円滑に在宅移行できるよう、在宅移行時に必要なアセスメントおよび院内・院外における必要な調整内容について理解することができる	
目標	【MSW】 - 在宅移行支援を必要とするがん患者への地域医療連携室における医療・保健・福祉・介護の連携方法や連携の実際から、地域医療連携室の役割と退院後も切れ目なく必要なケアが受けられるための多職種連携方法について説明ができる - 地域医療連携室における MSW の役割と医療・保健・福祉・介護との連携の実際 - 介護的視点から、日常生活支援を必要とするがん患者や家族が活用できる制度の活用支援、経済的問題の解決支援や家族支援方法の説明ができる - 日常生活支援を必要とするがん患者や家族が活用できる制度について - 医療費や介護療養費などがん患者に多い経済的問題と解決支援の実際 【看護師】 - 在宅移行支援を必要とするがん患者への地域医療連携室における医療・保健・福祉・介護の連携方法や連携の実際から、地域医療連携室の役割と退院後も切れ目なく必要なケアが受けられるための多職種連携方法について説明ができる - 地域医療連携室における看護師の役割と医療・保健・福祉・介護との連携の実際 - 医学的視点から、がん患者や家族が必要とする医療的支援内容をアセスメントし、必要な院内調整について説明ができる - 医療的支援を必要とするがん患者とは - 医療的支援を必要とするがん患者と家族のアセスメント(スクリーニング) - 医療的支援を必要とするがん患者の在宅移行における退院調整の流れと退院調整に関わる診療報酬	

	3. 日常生活支援や医療的支援を必要とするがん患者や家族が、退院後も切れ目なく必要なケアが受けられるための多職種連携方法について説明ができる 1)緩和ケアチームが行う在宅移行支援とその実際 2)がん患者の在宅移行にまつわる家族の問題と家族支援の実際 3)在宅移行支援を必要とする終末期がん患者と家族に対する退院カンファレンスの調整とその実際 (1)退院前カンファレンスとは (2)退院前カンファレンスの実際 4.「在宅移行する終末期がん患者のエンパワメントを支える看護ケア指針」を活用し、ロールプレイングやグループワークを通して、退院前カンファレンスを展開することができる
備考	

科目名:在宅がん医療と薬理	担当講師	高知県薬剤師会 常任理事 薬剤師 川添哲嗣
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成 25 年 12 月 1 日(日) 13:10～16:10
	講義方法	講義
目的	がんの在宅医療(在宅緩和医療含む)に特有な臨床薬理学の知識を学び、在宅がん看護実践への活用方法を身につける	
目標	1)がんの在宅医療における調剤薬局薬剤師の役割や提供されるサービスの内容について説明ができる (1)調剤薬局とは (2)訪問薬剤指導を受けるための手続き(流れ) (3)がんの在宅医療における薬剤師の役割 (4)訪問薬剤指導の内容と活動の実際 2)在宅緩和医療で使用頻度の高い疼痛に関する薬剤の薬理作用およびオピオイドの管理と取り扱いについて理解できる (1)疼痛時に使用する薬剤(別紙1) (2)ステロイド剤 (3)在宅における薬剤管理方法 (4)在宅における麻薬の管理と取り扱い (5)オピオイドローテーションの判断 3)薬理学の知識を活用した調剤薬局薬剤師の在宅緩和ケア支援方法が説明できる (1)薬剤師の行うがん患者・家族への在宅緩和ケア支援とは (2)在宅医や訪問看護師など他職種との連携の実際 【演習】 オピオイドのタイトレーション、レスキュードーズ、ローテーションに関して、事例をもとにグループワークを行い、オピオイドの使用方法について理解することができる。	
備考	別紙1 参照	

疼痛時に使用する薬剤（オピオイド・非オピオイド・NSAIDs）

別紙1

分類		商品名	投与経路
強オピオイド	麻薬	モルヒネ塩酸塩錠	内
		オプノ内服液	
		アンペック坐剤	坐
		モルヒネ塩酸塩注射液	注
		MS コンチン錠	内
		ピーガード錠	
		モルペス細粒	
		オキシコンチン錠	
		オキノーム散	注
		オキファスト注	
オピオイド 弱		フェントステープ	
		デュロテップ MT パッチ	
オピオイド 合成	非麻薬	コデインリン酸塩錠	内
		リン酸コデイン散1%	
		レパタン注	注
非オピオイド	NSAIDs	レパタン坐剤	坐
		トラマールカプセル	内
		ポンタールカプセル	
		ポンタールシロップ 3.25%	注
		ロピオン注射液	
		ナイキサン錠	内
		ロキソニン錠	
		ボルタレン錠	
		ボルタレン SR カプセル	
		ボルタレンサボ	坐
		インテバン SP カプセル	内
		グリナリル錠	
		ハイペン錠	
		ロルカム錠	
		モービック錠	
		セレコックス錠	
		ソランタール錠	
		アセトアミノフェン	カロナール錠

※鎮痛補助薬

抗うつ薬・抗けいれん薬・局所麻酔薬／抗不整脈薬・NMDA 受容体拮抗薬・中枢性筋弛緩薬

コルチコステロイド・ベンゾジアゼピン系抗不安薬・ビスホスホネートについて代表的な薬剤の紹介をお願いします。

科目名:在宅がん患者の家族と 患者・家族教育	担当講師	高知県立大学看護学部 助教 森下幸子 講師 廣川恵子(演習)
	講義時間数	4.0
	講義日時	平成 25 年 12 月15日(日) 9:00～14:00(昼休憩含む)
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん患者の家族の心理と社会的状況を理解し、家族を援助の対象として認識し、家族に必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	1)家族の一員ががん患者であることが、家族に及ぼす心理・社会的影響について説明できる (1)家族とは (2)家族の特性 (3)がん患者の家族の心理 (4)家族理解に活用できる理論を活用し、がん患者の家族に及ぼす心理・社会的影響を理解する 家族システム理論、家族発達論、家族ストレス対処論など (5)家族のアセスメント 2)在宅でがん患者を介護する家族のニーズや家族の持つ問題について説明できる (1)在宅でがん患者を介護する家族のニーズ (2)在宅でがん患者を介護する家族の現状と問題 3)在宅でがん患者を介護する家族への看護ケアの実際 (1)患者会(各医療機関における)におけるサポートシステム (2)訪問看護による家族看護の実際 4)患者・家族教育 (1)患者教育とは (2)家族教育とは (3)在宅におけるがん患者や家族への教育の内容 ①在宅療養上必要な医療的ケアに対する教育のポイント ②日常生活上必要な介護方法に対する教育のポイント 5)グループワークやロールプレイングにより、家族のアセスメントを行い、アセスメントに基づいた援助を行うことができる	
備考		

科目名:在宅がん患者とチームアプローチ	担当講師	①在宅ケアステーションあたご 所長 安岡しずか ②・③高知県立大学看護学部 准教授 川上理子 特任助教 弘末美佐
	講義時間数	6.5
	講義日時	平成 25 年 12 月 23 日(月・祝) ①10:00～12:00 ②13:00～14:30 ③14:50～16:50
	講義方法	講義
目的	在宅がん看護実践におけるチームアプローチの重要性を理解し、在宅がん医療に必要な役割やチームコーディネーターとしての役割を果たすことができる能力を身につける	
目標	1)がん患者の在宅療養におけるチームアプローチの重要性について説明できる (1)ケアマネジャーの立場から考える、がん患者の在宅療養におけるチームアプローチについて 2)チームメンバーであるケアマネジャーの役割と活動の実際について説明できる (1)介護保険制度について (2)ケアマネジャーを利用するための手続き(流れ) (3)チームにおけるケアマネジャーの役割 (4)看護師(訪問看護師含む)との協働について (5)在宅がん医療におけるケアマネジャーの活動の実際 3)チームメンバーであるホームヘルパーの役割と活動の実際について説明できる (1)ホームヘルパーとは (2)ホームヘルパーを利用するための手続き(流れ) (3)チームにおけるホームヘルパーの役割 (4)看護師(訪問看護師含む)との協働について (5)在宅がん医療におけるホームヘルパーの活動の実際 4)チームメンバーである訪問看護師の役割と活動の実際について説明できる (1)訪問看護とは (2)訪問看護を利用するための手続き(流れ) (3)チームにおける訪問看護師の役割 (4)他職種との協働について (5)在宅がん医療における訪問看護師の活動の実際 5)ロールプレイングやグループワークを通して、在宅がん患者の病期に応じて必要なケアを、チームメンバーの核となり予測的にコーディネートすることができる	
備考		

科目名:在宅がん患者の症状マネジメント 疼痛緩和	担当講師	社会医療法人近森会近森病院 がん性疼痛認定看護師 上戸理恵
	講義時間数	1.5
	講義日時	平成 25 年 11 月 24 日(日) 13:10～14:40
	講義方法	講義
目的	在宅がん患者にとっての症状マネジメントの重要性を理解し、必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	【疼痛緩和】 1)がんの病状変化に伴う代表的な身体症状である疼痛の病態に基づいたアセスメントと看護援助ができる (1)疼痛の定義 (2)全人的苦痛について (3)疼痛マネジメントの重要性(WHO 方式がん疼痛治療の 5 原則、WHO ラダー、疼痛治療の目標設定) (4)疼痛の構造 (5)疼痛のメカニズム (6)疼痛の原因による分類 (7)疼痛のアセスメント(スケールやアセスメントシートなどの紹介を含む) (8)疼痛に対する薬物療法と看護師の役割 (9)疼痛緩和ケアのための看護ケア(閾値をあげるケアなどエビデンスのある看護ケアの紹介)	
備考		

科目名:在宅がん患者の症状マネジメント ①在宅がん患者の精神医療 ②せん妄、倦怠感のあるがん患者の看護	担当講師	①あおぞら診療所 医師 松本務 ②幡多けんみん病院 緩和ケア認定看護師 大家千晶
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成25年12月1日(日) ①9:00～10:30 ②10:40～12:10
	講義方法	講義
目的	在宅がん患者にとっての症状マネジメントの重要性を理解し、必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	【在宅がん患者の精神医療:不安・うつ・せん妄】 1)がんの病状変化に伴う代表的な精神症状である不安・うつ病・せん妄の病態に基づいたアセスメントができる (1)がん患者にみられる心理的苦痛とは (2)がん患者にみられる代表的な精神症状のひとつであるうつ病について ①うつ病とは ②うつ病の診断 ③進行がんおよび終末期がん患者のうつ病に対する薬物療法 (3)がん患者にみられる代表的な精神症状のひとつであるせん妄について ①せん妄とは ②せん妄のメカニズム ③進行がんおよび終末期がん患者におけるせん妄の原因と症状 ④せん妄の診断 ⑤せん妄に対する薬物療法 【せん妄:看護】 1)がんの病状変化に伴う代表的な精神症状であるせん妄の病態に基づいたアセスメントと看護援助ができる (1)せん妄のアセスメント(評価ツールやアセスメントシートなどの紹介を含む) (2)せん妄の薬物療法における看護師の役割 (3)せん妄に対する看護ケア 【倦怠感:看護】 1)がんの病状変化に伴う代表的な症状である倦怠感の病態に基づいたアセスメントと看護援助ができる (1)倦怠感のアセスメント (2)倦怠感に対する看護ケア	
備考		

科目名:在宅がん患者の症状マネジメント 在宅がん終末期におけるフィジカルアセスメント	担当講師	高知県立大学看護学部 助教 石井歩 特任助教 弘末美佐
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成 25 年 11 月 24 日(日) 9:00～12:00
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん患者にとっての症状マネジメントの重要性を理解し、必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	【フィジカルアセスメント】 1)在宅終末期がん患者のフィジカルアセスメントができる (1)終末期のフィジカルアセスメントとは (2)症状・兆候からのアセスメント (3)循環器領域のフィジカルアセスメント (4)呼吸器領域のフィジカルアセスメント (5)対応について 【演習】 2)在宅終末期がん患者のフィジカルアセスメントに基づいた看護援助ができる (1)在宅終末期がん患者のフィジカルアセスメントと対応の実際	
備考		

科目名:在宅がん患者の症状マネジメント CSCI やカフティポンプなどの医療機器類の取り扱いおよび技術演習	担当講師	シーメック、Terumo、NIPRO、 Smiths medical 高知県立大学看護学部 助教 石井歩 特任助教 弘末美佐
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成 25 年 11 月 24 日(日) 9:00～12:00
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん患者にとっての症状マネジメントの重要性を理解し、必要な援助を提供できる能力を身につける	
目標	【医療機器類の取り扱い】 1)在宅緩和医療の現場で使用される医療機器類の説明ができる (1)カフティポンプの取り扱い(Terumo) (2)PCA ポンプの取り扱い(Terumo、Smiths medical) (3)ディスポーザブルポンプの取り扱い(NIPRO) (4)HOT の取り扱い 【演習】 2)患者の受ける在宅医療に用いられる医療機器類の取り扱いができる 3)CV ポートへの穿刺や持続皮下注射の穿刺が、モデルを用いて実施できる	
備考	【医療機器の取り扱い】については、Terumo、Smiths medical、NIPRO、シーメック(帝人)の各担当者より説明があります。	

科目名:在宅がん患者のエンド・オブ・ライフ・ケアと在宅看取り (在宅がん終末期患者の予後予測を含む)	担当講師	高知県立大学看護学部 准教授 川上理子 特任助教 弘末美佐
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成 26 年 1 月 25 日(土) 9:00～12:00 13:00～16:00
	講義方法	講義/演習
目的	その人らしい人生の最期を生き抜くことの意味を理解し、必要な援助を提供できる能力と在宅看取りを支援するチームメンバーのストレスマネジメントの重要性を理解することができる。	
目標	【エンド・オブ・ライフ・ケア】 1)人生の最期の時をその人らしく生き抜くことの意味について概説できる (1)エンド・オブ・ライフ(ケア)とは (2)エンド・オブ・ライフステージとは (3)エンド・オブ・ライフステージの化学療法・放射線療法・手術療法 (4)エンド・オブ・ライフステージにあるがん患者のその人らしさとは (5)エンド・オブ・ライフステージにあるがん患者・家族のアセスメント (6)エンド・オブ・ライフステージにあるがん患者・家族へのケア 【在宅看取り】 1)死にゆく過程で生じる身体・精神状態・スピリチュアルな状態を説明できる (1)在宅における看取りの過程 (2)エンド・オブ・ライフステージにあるがん患者の全人的苦痛のアセスメント (3)エンド・オブ・ライフステージの全人的ケア 2)尊厳ある死を迎えるための看取りのプロセスを家族含めて支援できる (1)在宅看取りに向けた臨終前後のがん患者・家族へのケア (2)エンド・オブ・ライフの看取りに関わる職種の家族に対する役割 【在宅がん終末期患者の予後予測(デス・エデュケーション)】 1)死にゆく過程で生じる症状やデータなどの客観的情報から予後予測を行い、家族にデス・エデュケーションを行うことができる (1)生命予後の予測 ①評価尺度 ②予後予測の臨床への活用 (2)デス・エデュケーションとは (3)家族へのデス・エデュケーションの実際 【デス・カンファレンス】 2)看取りを支援するチームメンバーのストレスマネジメント方法として、デス・カンファレンスのコーディネートができる (1)共感ストレスと共感疲労 (2)デス・カンファレンスとは	

	(3)デス・カンファレンスの方法 (4)デス・カンファレンスの効果 (5)ストレスマネジメントについて 【演習】 1) ロールプレイングやグループワークにより、事例を通して予後予測を行い、在宅看取りに向けた看護援助ができる。また、看取り後のデス・カンファレンスのコーディネートができる。
備考	

科目名:在宅におけるエンゼルケアと グリーフケア	担当講師	①高知県立大学看護学部 特任助教 弘末美佐 ②高知県立あき総合病院 がん看護 CNS 三橋日記
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成 26 年 1 月 26 日(日) ① 9:00～10:00 ② 10:10～12:10
	講義方法	講義/演習
目的	在宅看取りをした遺族へのケアの重要性を理解し、亡くなる前から始まるグリーフケアを提供できる能力を身につける	
目標	【グリーフケア】 1)グリーフケアについて説明できる (1)悲嘆とは (2)悲嘆のプロセス (3)悲嘆のプロセスに影響する心理的要因 2)遺族となる家族の理解と支援について説明できる (1)遺族ケアとは ①予期悲嘆 ②死別後の家族にもたらす生活変化 ③リスクの高い遺族 ④遺族ケアの現状 (2)在宅における遺族ケアの実際 【エンゼルケア】 1)根拠に基づいたエンゼルケアの説明と看護援助ができる (1)エンゼルケアとは (2)エンゼルメイクとは (3)エンゼルケアの持つ意味 (4)死後硬直とその対応 (5)死亡後、身体に起こる主な変化と対応 (6)日本の文化・ならわしごと 【演習】 (7)エンゼルケアの実際 (8)エンゼルメイクの実際	
備考		

科目名:在宅がん終末期患者の 身体症状管理 褥瘡・腫瘍自壊創	担当講師	高知医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 片岡薫 高知県立大学看護学部 助教 石井歩(演習)
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成 26 年1月11日(土) 13:00～16:00
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん緩和ケアに必要な皮膚・粘膜症状管理方法やリハビリテーション方法を身につける	
目標	【褥瘡・腫瘍自壊創】 1)がん終末期やがんの進行に応じてみられる皮膚・粘膜の病変が説明できる 2)がん終末期にある患者の褥瘡・腫瘍自壊創のアセスメントができる (1)終末期がん患者の褥瘡の発生要因 (2)終末期がん患者の褥瘡の特徴 (3)終末期がん患者の褥瘡アセスメント (4)皮膚に露出した悪性腫瘍や自壊創のアセスメント 3)がん終末期にある患者の褥瘡・腫瘍自壊創のケアが実践できる (1)褥瘡ケアの目標 (2)褥瘡ケアの目標に応じた治療・ケア方法 (3)皮膚に露出した悪性腫瘍や自壊創のケア方法 【演習】 4)がん終末期にある患者の褥瘡・腫瘍自壊創ケアの実際	
備考		

科目名:在宅がん終末期患者の 身体症状管理 口腔ケア	担当講師	地域歯科衛生士 川村智津 高知県立大学看護学部 講師 廣川恵子(演習)
	講義時間数	3.0 (うち演習 1.5)
	講義日時	平成 26 年 1 月 12 日(日) 13:00～16:00
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん緩和ケアに必要な皮膚・粘膜症状管理方法やリハビリテーション方法を身につける	
目標	【口腔ケア】 1)がん終末期にある患者の口腔トラブルについて説明できる (1)がん終末期患者の口腔粘膜状態について ①粘膜の脆弱化:唾液分泌減少による抗菌作用の低下など (2)がん終末期患者にみられる口腔トラブルとは ①口内乾燥 ②カンジダ症(味覚障害) ③口内炎 ④口臭 ⑤舌苔 ⑥義歯不適合など 2)がん終末期にある患者の口腔粘膜状態に応じた口腔ケアが実践できる (1)口腔ケアの適応 (2)口腔粘膜状態に応じた口腔ケア物品の選択 (3)口腔粘膜状態に応じた口腔ケア方法(出血傾向のある場合のケアなど) 【演習】 3)口腔ケアの実際	
備考		

科目名:在宅がん終末期患者の 身体症状管理 終末期のリンパ浮腫	担当講師	高知県立大学看護学部 助教 大西ゆかり 高知県立大学看護学部 助教 石井歩(演習)
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成 25 年 12 月 15 日(日) 14:10～17:10
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん緩和ケアに必要な皮膚・粘膜症状管理方法やリハビリテーション方法を身につける	
目標	【浮腫】 1)がん終末期にある患者の浮腫の病態が説明できる (1)がん終末期における浮腫の病態生理 ①リンパ浮腫と浮腫の病態生理 ②がん終末期の浮腫の要因と分類 2)がん終末期にある患者の浮腫のアセスメントと看護援助ができる (1)終末期がん患者の浮腫のアセスメント (2)終末期がん患者の浮腫に対するケアの目標 (3)終末期がん患者の浮腫に対するケア (4)リンパ浮腫をもつがん患者が終末期になった時のケア 3)がん終末期にある患者のスキンケアの重要性が説明できる 【演習】 4)がん終末期にある患者の浮腫へのケアおよびスキンケアの実際	
備考		

科目名:在宅がん終末期患者の 身体症状管理 フットケア	担当講師	雅歩・フットアドバイザー 真屋さおり 高知県立大学看護学部 講師 廣川恵子(演習)
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成25年1月12日(日) 13:00~16:00
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん緩和ケアに必要な皮膚・粘膜症状管理方法やリハビリテーション方法を身につける	
目標	【フットケア】 1)がん終末期にある患者やがん治療に伴う足病変について説明できる (1)足病変とは ①足の解剖生理学 ②足の皮膚疾患 ③爪の疾患・変形 ④足の変形 (2)がん化学療法による手足症候群 2) 足の皮膚・爪の観察ポイントが説明できる 3)がん終末期にある患者の足病変に対するアセスメントと看護援助(ケアや予防ケア方法)ができる (1)フットケアとは (2)フットケアの重要性 【演習】 4)フットケアの実際	
備考		

科目名:在宅がん終末期患者の 身体症状管理 リハビリテーション(身体)	担当講師 訪問看護ステーションちかもり PT 島崎義広 高知県立大学看護学部 助教 石井歩(演習)
	講義時間数 3.0
	講義日時 平成 26 年 1 月 11 日(土) 9:00~12:00
	講義方法 講義/演習
目的	在宅がん緩和ケアに必要な皮膚・粘膜症状管理方法やリハビリテーション方法を身につける
目標	【リハビリテーション(身体)】 1)がん終末期にある患者の緩和的リハビリテーションの考え方について説明できる (1)緩和的リハビリテーションとは ① がんのリハビリテーションの分類 予防的リハビリテーション、回復的リハビリテーション、維持的リハビリテーション、緩和的リハビリテーション ② 緩和的リハビリテーションの内容 2)リハビリテーションの観点から、がん終末期にある患者に必要な支援のアセスメントができる (1)終末期がん患者におけるリハビリテーションの目的 (2)終末期がん患者のリハビリテーションを行う際のアセスメントの視点 (2)終末期がん患者のリハビリテーションのゴールの設定 (3)終末期がん患者に対するリハビリテーションの内容 ① 生命予後が月単位の場合 ② 命予後が週・日にち単位の場合 ③ 廃用進行例のリコンディショニング(関節可動域訓練、筋力増強訓練など)、ポジショニング、リラクセーションなど (4)リハビリテーションにあたっての注意点 ① リスク管理 ② 精神心理的問題(うつ・不安・せん妄など)を抱える場合 ③ 疼痛を伴う場合 ④ 補装具の選定や環境調整:手すり、座面の位置、自助具など 3)リハビリテーションの立場から、家族への介護指導ができる (1)寝返り、起こし方、移乗方法など 【演習】 4)在宅における終末期がん患者へのリハビリテーションの実際
備考	

科目名:在宅がん終末期患者の 身体症状管理 リハビリテーション(呼吸)	担当講師	訪問看護ステーションあたご主任 理学療法士 大畑千加恵 高知県立大学看護学部 助教 石井歩(演習)
	講義時間数	3.0
	講義日時	平成26年1月18日(土) 9:00～12:00
	講義方法	講義/演習
目的	在宅がん緩和ケアに必要な皮膚・粘膜症状管理方法やリハビリテーション方法を身につける	
目標	【リハビリテーション(呼吸)】 1)リハビリテーションの観点から、呼吸困難のある進行がん・終末期がん患者に必要な支援のアセスメントができる (1)がん患者の呼吸困難の病態 ①がん患者の呼吸困難の特徴:呼吸不全という客観的な病態に心因性の要素が大きくかかわって、非常に複雑な症状となり出現するなど ②がん終末期に呼吸困難をきたす要因 ③呼吸状態に関する身体所見の評価 (2)呼吸困難のある進行がん・終末期がん患者に対する呼吸リハビリテーションの実際 ①安静時における呼吸困難に対するアプローチ ・ポジショニング、リラクゼーション ・呼吸法の練習、パニックコントロール ・呼吸介助法 ②気道分泌物の貯留・喀出困難による呼吸困難に対するアプローチ ・自己排痰法 ・体位ドレナージ ・スクイーミング ③日常生活時における呼吸困難に対するアプローチ ・呼吸困難をきたしやすいADL:上肢の拳上を含む動作、排便など息を止めて力む動作など ・呼吸困難を軽減させる対策:呼吸と動作の同調、動作環境の工夫など 【演習】 2)在宅における終末期がん患者へのリハビリテーションの実際	
備考		

科目名: 見学実習 I 訪問看護ステーション	見学実習 責任者	・訪問看護ステーションこうせい: 伊与田千草 ・訪問看護ステーションしもぢ: 村上亜由美 ・訪問看護ステーションあたご: 安岡しずか
	時間数	8.0
	日時	平成 26 年1月 27 日(月) ～2 月 21 日(金)
	方法	見学実習
目的	1. 訪問看護を必要とするがん患者への訪問看護の実際を理解できる 2. 訪問看護ステーションの役割機能を理解できる 3. がん患者の在宅療養における訪問看護師の役割について理解できる 4. 習得した看護技術の提供ができる	
目標	目的1について 1) 見学実習施設におけるがん患者への訪問看護に同行し、がん患者の在宅療養や訪問看護の実際について理解できる 目的2について 1) 見学実習施設における在宅ケアシステムについてオリエンテーションなどを通して把握できる (1) 24 時間対応体制などがん患者の療養支援のための取り組みが理解できる (2) 訪問看護を受けるための手続きが理解できる (3) 実習施設内または他の医療機関等との連携の実際について学ぶ (4) 実習施設の様々な取り組みなどを理解できる 目的3について 1) 訪問看護の同行やオリエンテーション等から、訪問看護体制、訪問看護師の役割について説明できる 2) 訪問看護師が行う多職種連携について説明できる 目的4について 1) がん患者および終末期がん患者の訪問看護に同行し訪問看護師と共に習得した看護ケアを提供できる	
備考		

科目名:見学実習Ⅱ 在宅療養支援診療所	見学実習 責任者	・あおぞら診療所:松本務 ・かもだの診療所:市川英明
	時間数	8.0
	日時	平成 26 年1月 27 日(月) ～2 月 21 日(金)
	方法	見学実習
目的	1. 在宅医療を必要とするがん患者への訪問診療の実際を理解できる 2. 在宅療養支援診療所の役割機能を理解できる 3. がん患者の在宅療養における在宅療養支援診療所の医師の役割を理解できる	
目標	目的1について 1)見学実習施設におけるがん患者への訪問診療または往診に同行し、がん患者の在宅診療の実際について見学を通して理解できる 目的2について 1)見学実習施設における在宅医療システムについてオリエンテーションなどを通して把握できる (1)24 時間連絡・対応体制などがん患者の療養支援のための取り組みが理解できる (2)訪問診療を受けるための手続きが理解できる (3)実習施設内または他の医療機関、訪問看護ステーション等との連携の実際について学ぶ (4)実習施設の様々な取り組みなどが理解できる 目的3について 1)在宅療養支援診療所の訪問診療やオリエンテーション等から、在宅医の役割について説明できる 2)在宅医が行う多職種連携について説明できる	
備考		

科目名:見学実習Ⅲ 調剤薬局		見学実習 責任者	あじさい薬局:阿部泰宜
		時間数	8.0
		日時	平成 26 年1月 27 日(月) ～2 月 21 日(金)
		方法	見学実習
目的	1. 在宅医療を必要とするがん患者への訪問薬剤指導の実際を理解できる 2. 調剤薬局の役割機能を理解できる 3. がん患者の在宅療養における調剤薬局の薬剤師の役割を理解できる		
目標	目的1について 1)見学実習施設におけるがん患者への訪問に同行し、がん患者の訪問薬剤指導の実際について見学を通して理解できる 目的2について 1)見学実習施設における訪問薬剤指導の提供システムについてオリエンテーションなどを通して把握できる (1)24 時間連絡・対応体制などがん患者の療養支援のための取り組みが理解できる (2)訪問薬剤指導を受けるための手続きが理解できる (3)実習施設内または他の医療機関、訪問看護ステーション等との連携の実際について学ぶ (4)実習施設の様々な取り組みなどが理解できる 目的3について 1)調剤薬局の訪問やオリエンテーション等から、地域における薬剤師の役割について説明できる 2)地域で活動する薬剤師が行う多職種連携について説明できる		
備考			

科目名:見学実習Ⅳ がん診療連携拠点病院 がんセンター 緩和ケアカンファレンス	見学実習 責任者	高知医療センター:北添可奈子
	時間数	カンファレンスに要する時間
	日時	平成 26 年1月 27 日(月) ~2 月 21 日(金)
	方法	見学実習
目的	がん患者の症状・治療の現況について、がん診療に関わる医師、その他の専門医師、病院スタッフが各診療科や部署を越えて横断的に行う意見交換に参加し、がん診療連携拠点病院におけるがん医療の実際について理解することができる	
目標	1)見学実習施設におけるがんセンターおよび緩和ケアカンファレンスへの参加を通し、がん患者のがん医療の実際について見学を通して理解できる 2)見学実習施設におけるがんセンターおよび緩和ケアカンファレンスへの参加を通し、在宅との連携のあり方について考えることができる	
備考		